



かがやき

下条中学校だより
令和5年10月号

「探究心に富み しなやかで たくましい生徒の育成」



「♪きっと未来を作っているさ」（下条小中一貫歌「ヒカリ」より）

校長 佐藤 栄策

旅人が田舎の道を歩いていると、男がレンガ積みをしていました。旅人は男に、「何をしているのですか？」と尋ねました。

男は「見ての通りレンガ積みさ！暑い日も寒い日も一日中レンガ積みをしているのさ。楽な仕事をしている人もいるのに全く不公平だ」旅人はまた歩きだしました。

しばらく歩くと、別の男がまたレンガ積みをしていました。「何をしているのですか？」と尋ねました。男は「レンガを積んで壁を作っているのさ。でも仕事があるだけでもありがたいよ。おかげで家族を養うことができているんだ」旅人はまた歩きだしました。

しばらく歩くと、また別の男がレンガを積んでいました。「何をしているのですか？」と尋ねると、男は「歴史に残る大聖堂を作っているのさ！自分が作った大聖堂で、多くの人が結婚や誕生を祝福され、悲しみがはらわれるんだ。素晴らしいと思わないか？」旅人は明るい気持ちで歩き出しました。（「3人のレンガ職人」より）

「なぜ勉強するの？」と聞かれたら、「先生がこの問題を解けというからだよ。面倒くさいなあ」と答えるか、「勉強するといいい高校に行けるって、親が言っていたから」と考えるか、それとも別の答えでしょうか。

私が学級担任をしていた時、クラスの生徒から同じことを尋ねられたことがありました。「それはね、何が正しくて何が正しくないのか自分の力で見極められるようになって、周りの人を幸せにするためだよ」と答えたような気がします。しかしそのようなことは、一通り義務教育を学び、社会に出て役に立ったという実感をもつ「大人」しか言えないことです。つまり、子どもたちになぜ学ぶのか、なぜ集団行動ができないといけないのか、なぜ生きているのか…その答えを大人が示す責任があるのではないのでしょうか。


大人が理想を持ち、夢を見てそれを子どもに自身の言葉で語ることの重要さが、閉塞感漂う今の世の中で最も必要なことではないのでしょうか。

当校の教育活動の柱となっているキャリア教育の肝は、今の学びが将来どのようにつながり役に立つのかを知り、物事の仕組みに興味を持たせることです。これからもご協力をお願いいたします。



10～11月の主な予定

※変更になる場合があります。

- 10/11日(水) 地層観察（1年・午前）
- 12日(木) 中越地区駅伝大会(小千谷白山)
- 13日(金) 合唱中間発表
- 14日(土) 3学年PTA親子行事
- 15日(日) 「家読」の日 
- 17日(火) 学園祭合唱リハーサル

21日(土) 下条小中学園祭(午後中学発表)

**※感染症拡大防止のため、生徒の家族の
限定参加となります。ご理解のほどよ
ろしくお願いいたします。**

- 22日(日) 下条地区文化祭
- 23日(月) (振替休業日)
- 26日(木) 避難訓練
- 30日(月) 読み聞かせ(生徒集会)
- 11/2日(火) 県駅伝大会(小千谷白山)
漢字検定
- 3日(金) (文化の日)
- 6日(月) 教育相談週間(～10日)
- 9日(木) 郡市音楽交歓会参加(午後)
- 10日(金) エコメディア講演会(午後)

私と姉は全く似ていない。身長も得意なことも苦手なことも全く違います。私は運動が得意ですが、姉は苦手です。姉は絵を描くのが得意ですが、私は苦手です。「同じように育てたのになんでこんなに違うんだろう。」と母は笑っています。同じ姉妹でも全然違って、人には人それぞれの長所・短所があると改めて思いました。そう思いながら友達など周りを見てみるといろいろな「個性」があることに気づきました。私は、人それぞれの個性を否定せずに受け入れることが大切だと考えます。皆さんは人それぞれの個性を受け入れられているでしょうか。

私は以前、「あの人は少し変わっているな」と思ったことがありました。その話を母にすると「相手からしたら自分が変わった人だと思われているかもしれないよ。」と言われました。その言葉を聞いたとき、私は驚きました。相手からの捉えられ方を考えていなかったからです。私が相手のことを「変わっているな」と思ったのは、私の考え方とその人の考え方が違っていただけからです。それは、相手の考え方を無意識のうちに否定していたことになり、しかし、見方を変えれば、相手も私の考え方を「変わっているな」と思っているかもしれない。つまり、私も否定されているかもしれない。自分が否定されているかもしれないと思うと、少し悲しい気持ちになりました。母はその私が考えていなかった相手の気持ちに気付いてほしかったのだと思います。自分が少しでも人に対する考え方を変えれば、相手に対する捉え方、相手からの捉えられ方も変わってくるのではないかと思います。

ところで、今までに自分中心に考えてしまい、相手を自分の思い通りに動かそうとした経験はありませんか？でも結局は思い通りにいかずイライラしてしまうのではないのでしょうか。きっとその理由は、相手のことを考えているかどうかです。相手のことを考えずに指示をしたり、自分の考えを押し付けたりしても相手は納得できません。相手の個性や考え、ペースを一人一人がちゃんと受け入れられれば、イライラしないのはもちろん、いじめや喧嘩も起こらなくなると思います。

今年もクラスで学級目標を決める時、私が進行役で指示を出しました。早く決めようとあせっていたせいか、その時、相手のこと、クラスみんなのことを考えてはいなかったのだと思います。そのため、意見に納得していない人が多く、なかなか作業が進みませんでした。そのような経験から、私は相手の考えを聞かずに、自分の考えを押し付けるのはそれぞれの良さを否定しているし、良くないことだと気づかされました。よく「〇〇さんのようになりなさい。」と言う人がいます。それは間違いだと私は思います。母は「苦手なこともある程度の努力は必要だけど、無理矢理する必要はないんじゃない？好きなこと、得意なことを伸ばしなさい。」と私たちに言います。だから、「お姉ちゃんみたいにあなたも絵が上手に描けたらいいのね。」なんていうことを言われたこともありません。おかげで、私は好きな陸上をのびのびとすることができています。両親に、私の個性を認め伸ばしてもらえたことに、本当に感謝しています。個性は人それぞれ違います。「〇〇さん」の個性を押し付けるのではなく、自分の個性を伸ばすことも大切だと思います。

「個性」と言うものは自分以外の誰とも同じではありません。自分だけが持っている宝物だと思います。その宝物は人それぞれです。自分の宝物、そして、相手の宝物を否定せず、受け入れることが大切だと私は考えます。私は、これから何でも自分の思い通りにしようと考えないで、相手のことをちゃんと考えたいと思います。そうすることで自分も相手もそれぞれの個性を互いに受け入れられ、より良い関係を築けるのではないのでしょうか

下条中生の活躍 **がんばったね!**

<郡市発明工夫模型展>

観察記録の部 優秀賞

観察記録の部 入選

観察記録の部 入選

観察記録の部 入選

<魚沼四市二郡中学校新人陸上大会>

共通男子砲丸投 優勝

共通男子200m 第3位

共通男子棒高跳 第3位

共通女子1500m 第6位

共通女子800m 第7位

男子4×100R 第6位

<第34回十日町杯ローラースキー大会>

中学2・3年男子7km 第3位

中学1年女子 5km 第5位